

## 粒子線治療における 薬剤師の役割

薬剤科 園 優子

前任施設からの異動で粒子線医療センターに勤務して5年目になりました。薬剤科の基本方針である「粒子線治療を受ける全ての患者様に適切な薬物療法支援を行う」をモットーに日々活動しています。

近年は、高齢者や進行がんの患者さんの増加に伴い、既往症への対応、全身管理、疼痛管理を必要とする症例が多くなっています。また、粒子線治療や抗がん剤の併用による有害事象対策においても薬物療法が必要となります。このように、粒子線治療中の患者さんの薬物療法は多岐にわたり、薬剤師の果たすべき役割は年々大きくなっていると実感しています。

当センター薬剤科は、常勤薬剤師2名、事務員1名で構成され、各種薬剤業務を行っています。特に入院患者さんに対しては、全例薬剤師が介入し、安心・安全な薬物療法の提供に努めています。

### (1) 患者さんの情報収集、持参薬等の確認

入院した患者さんに薬剤師が面談し、アレルギー歴や副作用歴、持参薬、健康食品等の種類や飲み方、ご自宅等での管理状況を確認します。相互作用や重複投与、入院治療において特に注意が必要な薬剤(ハイリスク薬)について、情報を医師等に提供し、必要に応じて薬剤の中止や投与量の増減、代替薬の提案を行っています。

### (2) 患者さんの状態に応じた薬剤の提案

薬剤の投与に際して、患者さん個々の状態に応じて剤形、投与量や投与速度、投与時間、薬剤の追加、中止等を医師に提案しています。

### (3) 薬効、副作用モニタリング

患者さんへの聞き取り、検査値等から、薬剤の効果や副作用の有無について確認しています。

### (4) 多職種連携

当センターはスタッフ間の連携が密にとれるという小規模施設の利点を活かし、各種医療チーム活動にも力を入れています。薬剤師も各種医療チームへ参加し、医師、看護師等の医療従事者とともに患者

さんの状態を把握し、薬物療法に関する提案を行っています。また、医薬品に関する情報を収集して、チーム内へ提供しています。現在、緩和ケア、がん化学療法、感染対策、栄養管理、口腔ケア、皮膚ケア、アイケアチームに薬剤師が参加しています。

### (5) 医療従事者への医薬品情報の提供・相談応需

医薬品に関する最新の情報を収集し、医療従事者に提供したり、医薬品に関する問い合わせに対応しています。

### (6) 抗がん剤調製

ハイリスク薬の一つである抗がん剤について、患者さん個々の投与スケジュール・投与量を確認し、無菌調製を行っています。

### (7) 薬品管理

病棟における医薬品の保管状況や使用期限等を確認し、使用状況を把握することで、適正な医薬品の保管・管理に努めています。

### (8) 退院時指導

治療が終了して紹介元の医療機関を受診される際や調剤薬局での薬剤交付時に困ることのないように、お薬手帳を活用し、当センターで使用した薬剤や持参薬の変更等の情報を提供しています。

このように、患者さんがよりよい治療を受けられるよう日々の業務に取り組んでいます。少人数ですが、高度化、複雑化する医療において、適切な薬物療法の実現に貢献できるよう今後も薬剤師として自己研鑽に励みレベルアップしていきたいと思えます。



緩和ケアミーティング